

被災地で学ぶワイルドキャンプ in 歌津

津波の被災現場を被災者とするき、
将来の自分の被災をシミュレーションするために
欠乏状態での野営プログラムを実施しました。



2012年7月14~16日
@歌津各地へさえずりの谷
参加者16名

缶詰の油で灯りをともす実験
地元の情報を得て水くみ、薪になるものを探して
火おこし、食料集め。
缶詰を開けたら、缶は調理器具、残った油は灯明に
活動の合間に、被災者から当時の話を具体的に伺い、
アドバイスをもらいます。
命がけの厳しい条件もとの工夫や発見は、自慢
話として笑顔で語られました。「自分が生き残ること
だけでなく、生き残れる人を多くすること」を目的
に、知恵と力を出し合つて乗り越えてきた地域の人々
のなかには、「皆が一緒だった避難所の頃が懐かしい」
と述懐するひともありました。

※第2回ワイルドキャンプは
8/31~9/2 開催です
お問い合わせは
「歌津てんぐのヤマ学校」まで!
(yamagakkou@gmail.com)

ハサミで竹を割る

震災時の実体験だけでなく、古い
津波の言い伝えとしての「地名」や、
山の中に残る道などにも話は及び、
地震国日本に生きることに、いかに
多層的な技術が必要かを改めて認識
する場となりました。

上映会

おかげさまで西表島での上映会全日程を無事に終了いたしました。
監督より皆様にメッセージをお預かりしましたので掲載いたします。

『フレイフレー山田』の撮影時に岩手県山田町でお世話になった方に、今回の西表島での上映会の報告をしました。その方は来年仲間
4人と一緒に西表島に行きたくなって、今計画をしていると言っていました。
『フレイフレー山田』上映会がきっかけとなって、山田町と西表島に住む人たちとの間に交流が生まれたら、この映画を作った者として
こんなに嬉しいことはありません。
今回、上映会に来てくださった皆さま、上映会に関心を持ってくださった皆さま、忙しい季節にも関わらず上映会の実現に尽力してくだ
さった皆さま、言い尽くせない感謝の気持ちで一杯です。今後も細く長く上映活動、そして次への撮影を続けて行きます。
ただこの活動が、お仕合せがましくならないように気をつけます。思想家の吉本隆明さんの言葉を借ります。
「いいことをしているときには、悪いことをしているぐらいのつもりでいなさい。」

上映回数 6回(エコツーリズムセンター・西表小中学校・白浜小学校・離島総合振興センター・船浮小中学校)
上映会観客数 143人
募金額 53,016円
このお金は山田町の復興復興へ向けて使われます。お金の使い道は、現地の信頼できる方をお願いを
しています。使い道が決まりましたら、また報告をします。

御木茂則

ふりかえり企画

RQ活動年表

東北の人たちにとって大切な「お祭り」。
夏以降、RQへは、お祭りに神輿の担ぎ手
や、運営や企画として関わってほしいとい
われることが、各拠点で増えました。
祭りに臨む被災地の姿を目の当たりにし、
復興への足どりを再確認するとともに、東
北の潜在能力を体感する機会になりました。

生活再建支援
(以降現在に至る) ↓

- 8/7 テント村・日曜朝市(支援物資を眠らせない企画)
歌津子どもキャンプ/第一回親子キャンプ
(以後 RQの本領発揮のキャンプ企画目白押し)
- 8/11 LIGHT UP NIPPON(東北各地で一斉に花火大会)
- 8/13 歌津中学卒業式に参加
- 8/14 河北・福地夏祭りに参加
このころ RQW手仕事プロジェクト始動(孤立防止&現金収入)
「こどもゆかたプロジェクト」ゆかた進呈完了
- 8/17 河北・荻の浜中学校運動会に参加
- 8/20 小泉・本吉福祉祭りに企画 運営で参加 次回「処暑朔日号」に続く

we support!
RQ
災害教育
センター

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』しんぶん

立秋
朔日

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ポラントピアに来たよ」という
意味である。

